

直前期の過ごし方が合否を左右する！

「マン管・管理業 直前期の正しい過ごし方」

1. テキストを使った学習の総括をしよう

- ①知識の横断整理はできているか？
- ②苦手科目はないか？

①知識の横断整理はできているか？

民法と区分所有法、区分所有法と標準管理規約といった、類似する規定がある科目はどうしても混同しがちなので、知識の横断整理をし、相違点を確認しておきましょう。

②苦手科目はないか？

マンション管理士・管理業務主任者試験ともに、苦手科目を作ってしまうと合格基準点に足りなくなってしまう。すべての科目でAランク問題は必ず得点できるようにし、Bランク問題も半分くらいは得点できるようにしておきましょう。

逆に、苦手科目は今後の伸びしろと考えて学習をしていきましょう。

2. 9月からの過ごし方は過去問を中心に仕上げていこう

- ①優先すべき過去問
- ②過去問は×（誤り）の理由を確認する
- ③過去問を解いたらテキストを確認する
- ④ひっかけのパターンを思い出しながら解く

①優先すべき過去問

本試験は、過去出題されている論点がくり返し出題されています。もちろん過去未出題の論点からも出題されますが、そのほとんどは合否に関係しません。過去問で出題されている論点を絶対に間違えないという学習が一番効率的です。しかし、過去問をすべて解き直すというのは合理的ではありません。優先順位は以下のようになります。

- ①目次を見て、出題頻度が高い（過去問に収録されている数が多い）論点の問題をやる
- ②Aランクをまず完璧に仕上げる
→Bランクはその次、Cランクは捨てていい
- ③苦手になっている科目から着手する
→苦手分野が一番得点の伸びしろがある
→もし自分の苦手分野が今年の試験で簡単だったら、他の受験生は高得点を取る可能性が高い。その分差が生まれてしまうリスクがある

②過去問は×（誤り）の理由を確認する

過去問をせっかく解いても、○×だけ確認しておしまいだと応用力が付きません。特に×肢は、なぜ×なのか理由を確認して、類似の問題が出題されたときに間違わないようにしましょう。

余裕が出てきたら、解説⇒問題の順に読んで、解説からどのような問題で出題されているか予測できるようにすると理解度が深まります。

③過去問を解いたらテキストを確認する

過去問で出題された論点は、再度出題される可能性が高いですが、その際、今までは出ていない関連論点が出題される可能性もあります。また、法改正等がされている場合もあるので、過去問を解いたら、テキストの該当箇所を読み込むようにしましょう。

④ひっかけのパターンを思い出しながら解く

設備等の問題では、同じ論点を繰り返し出題してきます。特に数字や定義等は同じひっかけがよく用いられるので、それを意識しながら解くのが効率的です。過去問集にひっかけで出題されたポイントを書き込んだり、線を引いてすぐに確認できるようにしておくのが効率的です。

3. 10月～11月は答練の復習

- | |
|------------------------------|
| ①答練で本試験の練習をしよう
②答練の復習をしよう |
|------------------------------|

①答練で本試験の練習をしよう

過去問が解けることと、本試験で得点できることは別問題です。また、時間内に50問解けるかどうかを試す必要があります。本試験の練習として答練を活用しましょう。

②答練の復習をしよう

答練は最近の出題傾向や法改正論点を踏まえ、今年の本試験で出題が予想される論点で作成されています。解けなかった問題を確認し、復習しましょう。本試験合格にどの科目で何点増やせばいいか復習の計画を立てましょう。